



2022年1月号

ウトナイ湖通信

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター ボランティア活動の紹介

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、当センターの活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。本年もウトナイ湖や周辺の自然に関する普及や保全のための調査活動を行なっていきます。また、これらの活動には当センターの登録ボランティアの皆さんの協力があるからこそ成り立っています。今年も皆さんと、活発に活動していきたいと思っております。

ボランティア活動に興味のある方はお気軽に当センターへお問い合わせください。

自然情報収集調査



毎月調査結果をまとめて、館内に掲示しています。ぜひ、自然観察路を回る前にご覧ください。



水鳥カウント調査



ハクチョウ類、ガン類、カモ類、サギ類、猛禽類などを探し記録



コロナ禍で観察会ができない...
よし、動画で伝えよう!



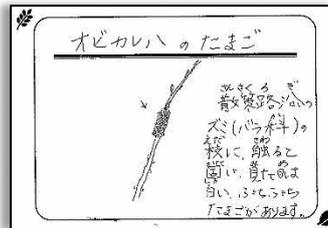
世界湿地の日記念動画で、ウトナイ湖の自然を案内するボランティアさん

Youtube
公式ウトナイ湖
野生鳥獣保護センター
チャンネル QR コード



●解説動画等がご覧いただけます。

ミニ自然情報収集と ゴミ拾い活動



自然紹介カード

ゴミは捨てずに
持ち帰りを!



おすすめの自然を
カードに書いて紹介!

【自然観察路情報】 観察された生きもの

2021年12月19日（日）10:00~12:00

《野鳥》シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アカゲラ
コゲラ、ヒヨドリ、オジロワシ、ダイサギ、オオハクチョウ、マガモ

《植物》ハンノキ、ツルウメモドキ、チョウセンゴミシ、エゾノクロウメモドキ、カラコギカ
エデ、シラカンバ、イボタノキ、ニシキギ、キハダ、ガガイモ、オオイタドリ

【冬芽】ホオノキ、ヤチダモ 【蔓】ツルウメモドキ、コクワ、ヤマブドウ

《その他》キタキツネ、エゾユキウサギ、種不明ネズミ（すべて雪上の足跡）、エゾリスの古
巣？、種不明野鳥の古巣、オビカレハの卵、ヤマトゴミグモの卵、フロストフラワー



【水鳥カウント調査結果】

2021年12月16日（木）15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 *（）内は個体数、（+）は以上、（±）は「前後」の意味

コブハクチョウ（4羽）、オオハクチョウ（29羽）、オカヨシガモ（2羽）、ヨシガモ（20羽）、ヒドリガモ（18羽）、マガモ（125羽）、カルガモ（2羽）、ホオジロガモ（3羽）
ダイサギ（18羽）、オオバン（1羽）、トビ（1羽）、オジロワシ（6羽）



1月の自然予報

林の野鳥が観察しやすい季節です

冬は葉が落ちバードウォッチングに最適な季節です。自然観察路での野鳥観察ポイントと合わせて、見られるかもしれない野鳥をご紹介します。



【混群】

冬の間、林の野鳥は食べものや天敵を早く見つける等の目的で種を越えて群れを作ります。この「混群」に出合えると多種の野鳥を観察できます。

【ハンノキの実】

観察路に多い樹木ハンノキ。松ぼっくりの様な小さな実の種は野鳥に人気です。



【ツルウメモドキなどの実】

果実などが好きな野鳥が集まります。



【倒木】

地面に倒れている木や、切った木が積んである所に、キツツキの仲間が来ることがあります。



【マヒワ】

全長約 12cm。日本では少数が繁殖するものの、多くは冬鳥です。オスメスともに黄色く、オスの方が鮮やかです。「ビューーン」「チュイーン」と鳴きます。ウトナイ湖では年によって観察頻度の違いがありますが、例年 11 月～翌年 4 月頃まで見られます。



オス



メス

ウトナイ湖では、林の中のハンノキに群れで来て、実の中の種を採食していることが多い。

*ウトナイ湖に関するクイズ
毎回、その月に合わせたテーマで出題しています。
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 冬にウトナイ湖は、ほぼ全面が結氷しますが、赤い丸のところは凍っていないことがあります。なぜでしょう？



- (あ) 水の流れがあるから
- (い) 日当たりがいいから
- (う) 水深が他のところより深いから

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

ミヤマホオジロ

原因：窓ガラス衝突



体重 16g

初診時の様子



明らかな外傷は認められなかったが、全身状態は不良だった

12月9日



死亡

市内の建物の窓ガラスに衝突し、動けずにいるところを保護される。明らかな外傷は認められなかったものの、呼吸が若干荒く、膨羽（羽を膨らませること：体温低下や体調不良時に見られる）傾向にあったため、置き餌をして、保温・安静下にて経過観察とした。
1晩経過後、膨羽状態進行。餌は食べている様子はなく、呼吸もやや荒かったが、朝9時頃に容体急変し、死亡。

ミヤマホオジロ（スズメ目 ホオジロ科）全長16cm 冠羽をもつホオジロ類です。今回保護されたのはオスの個体で、頭頂と顔が黒く、眉斑と喉の黄色、胸の逆三角形の黒斑が特徴的です。メスは全体的に色が淡く、胸の黒斑はありません。北海道では冬鳥で、平地から低山の林、原野や農耕地で観察することができます。

傷病鳥獣救護記録展

日時：2021年12月4日～2022年1月30日

展示：ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

2階市民ギャラリー

内容：今年1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルでご紹介します。

展示とあわせて、クイズラリーも開催しています。



クイズラリーは
参加賞もご用意しています!



イベント情報

【アイロンビーズで野鳥を作ろう ～身近な野鳥編～】

1月29日(土)

①11:00～

②14:00～

身近に見られるアカゲラ、スズメ、シジュウカラの中から選んで、アイロンビーズを並べて作ります。

対象：どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

定員：各4組(1組2作品まで作れます) 参加費：無料

申し込み：1月4日(火)～28日(金)までの、9時～17時。

電話で当センター【0144-58-2231】へ ※月曜日(祝日の場合はその翌日)は休館日です。



お知らせ

年末年始 休館日のお知らせ

※12月27日(月)は休館日です

2021年12月29日(水)から2022年1月3日(月)まで(休館日を含む)



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時～午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始



答え：(あ) 水の流れがあるから、赤い湖の箇所は「美川」「美川」「美川」の流れる場所です。水の流れるため凍らず、冬でも水面が見えています。ウトナイ湖周辺の一部越冬するオオハクチョウや、一年中暮らしている外来種のコウノチヨウなど、ウトナイ湖が結氷すると、この辺りやその先に続く川で過しているようです。